

令和5年度 第4回逢妻地域会議 会議録

■日時 令和5年8月16日(水) 午後6時30分～午後8時

■場所 逢妻交流館 1階 多目的ホール

■出席者

<委員>	岡田 一(会長)	川瀬 光和(副会長)	竹原田 力
	永井 晃彦	鈴木 靖夫	松崎 康則
	三村 義博	岩内 輝義	今村 典生
	篠田 和明	光岡 博	永田 雅司
	鈴木 仁	鷲野真由美	
<欠席者>	中野 有紀	大高 日出子	加藤 圭一
<市長>	太田 稔彦		
<市議>	浅井保孝		
<関係職員>	辻 邦恵(企画政策部 部長)	後藤 哲也(地域振興部 部長)	
	丹羽 広和(企画課 副課長)	大光 圭二(都市計画課 副課長)	
<事務局>	岡本 裕之(挙母事務所長)	松下 誠(挙母事務所 副所長)	
	田嶋 優俊(地域支援課 担当長)	近藤 綾香(地域支援課 主事)	

■次第

- 1 会長あいさつ
- 2 市長あいさつ
- 3 市議あいさつ
- 4 諮問
 - (1) 諮問書授受
 - (2) 諮問内容説明
 - (3) 質疑応答及び意見交換
- 5 協議事項
 - (1) 答申について
- 6 その他
 - (1) 挙母代表者会議について
 - (2) 「第5回地域共生社会推進全国サミット in とよた」の開催について
 - (3) 地域会議委員の改選について

■議事(要約)

- 4 諮問
 - (2) 諮問内容説明
企画課及び都市計画課職員から資料の通り説明した。
 - (3) 質疑応答及び意見交換
別紙のとおり
- 5 協議事項
答申までの流れについて事務局から説明した。

6 その他

(1) 挙母代表者会議について

会長から資料の通り説明した。

(2) 「第5回地域共生社会推進全国サミット in とよた」の開催について

事務局から資料の通り説明した。

(3) 地域会議委員の改選について

事務局から、1期目の委員のうち、今期で退任の意向の委員は9月8日(金)までに事務局へ連絡がほしい旨伝えた。

●次回逢妻地域会議

日時：令和5年9月20日(水)午後6時30分～

場所：逢妻交流館 1階 多目的ホール

第4回地域会議 質疑応答 議事録

委員	<p>抽象的なことが聞かれているが、逢妻地域として回答するという認識でよいか。</p> <p>個人的に市に要望したいこととしては、地域バスを細かく走らせてほしい。逢妻地区は、病院に行こうとしてもいったん豊田市駅に出る必要があるので不便。</p>
市長	<p>諮問内容が漠然としているので、何を答申すればよいか悩むのは理解できる。現在は9総の基礎的なところを検討しているところであって、具体的な施策の話はこれから議論していくところなのでご了承いただきたい。</p>
委員	<p>「つながる」という言葉が頻繁に出てくるが、市長としてはどういったことを考えているのか、もう少しかみ砕いて説明していただきたい。</p>
市長	<p>さまざまな課題に対して、例えば地域会議だけ、区長会だけでは解決できない場合もある。そうしたときに、いろんな関係者がつながることで新しいアイデアがでる。単独ではできないことでも、つながることでできる範囲が広がる。「つながる」は市長に就任した時からキーワードとして大切にしている。</p>
委員	<p>子どもたちが地域に愛着をもって地域に長く住んでもらうことが大事だと考えている。どのようにして子どもの定住につなげていくべきか、市長の考えを聞きたい。豊田市は地価が高いとも聞く。</p>
市長	<p>日本人の人口は減り始め、外国人の人口で豊田市の人口が保たれているといえる。事実として、若い世帯が市外の土地が比較的安価なところに出て行ってしまう傾向もある。</p> <p>岡崎市には「この町に住み続けたい」という人が多いという調査結果が出ている。さらに、岡崎市で「歴史や文化財に愛着がある」と答えた割合は、豊田市より20ポイント高い。この結果からいえることは、自分の地域の歴史や文化にこだわって大事にする大人が多いと、子どもたちも地域に愛着をもつようになり、長く住み続けたいという意識につながるのではないかと。土地の値段の話は残念ながらなかなか乗り越えられないが、それでも豊田市に住んでもらうには、地域の大人たちが地域の良さを子どもたちに伝えることが大切だと考える。</p> <p>自分が地域に出向く際、大人たちから、この町にはこれがないという話をよく聞き、ここが素晴らしいという話はあまり聞かない。大人が地域をよく思っていないことを子どもたちが聞くと、子どもも愛着は持てないはず。</p>
委員	<p>自分が住んでいる本地自治区はつながりがしっかりとあると思う。環境美化にもたくさんの区民が参加する。本地自治区は2月に3回目の環境美化をやるが、回数を増やすことで、顔を合わせる機会が増え、より交流が活発化する。昔から住んでいる人、ほかのところから来た人の区別なくみんなが気持ちよく暮らせるようにしたい。また、本地自治区の自慢としては、</p>

	<p>ごみステーションの使い方がきれいなところ。細かく決めたルールを、みなさんよく守ってくれている。</p>
市長	<p>ごみステーションはどの自治区でも悩みの種。そうした成功事例をぜひ横展開してほしい。また、地域内での声掛けは大切。あいさつ運動をみんなで行うのが効果的。声掛けをされることで地域活動に関心を持つ人が増える。防犯上、そして子どもたちにとって重要なことである。</p>
委員	<p>自分は保護司をしていて、高齢者に生活保護費や住宅等は支給されているが、多くの方は1日中やることなくぼーっとしているという実情を見ている。それは苦しいことだ。そういう人のつながりについても考えていただきたい。</p>
市長	<p>深刻な問題。ある高齢者施設が別の事業所とつながって、高齢者に軽作業をお願いすることで、その人の暮らしが充実したという事例がある。役割がある状態を社会が意図的につくるのが大切。高齢になってからいきなり地域の行事にでましようといっても苦痛でしかない。</p> <p>豊田市では、10月に地域共生社会のサミットがある。豊田市の場合は、地域共生社会を新しいものとしてとらえる必要はない。自治区を中心としたコミュニティづくりを長年にわたって行っている。それこそが豊田市型地域共生社会であるため、今後はさらに深めていきたい。</p>
委員	<p>子どもたちは、山間部にいくと、豊田市の広さ、自然の豊かさに驚いている。山村部への留学の話もある。山村と都市では環境が違うので、つながりを持ちにくいとも感じる、子どものつながりについて考えを聞きたい。</p>
市長	<p>一つの自治体で都市と山村がどちらもあることは珍しい。全市的な取り組みは難しいが、個別の地区ではやっている。旭地区と朝日丘地区の交流など。逢妻もぜひやってほしい。</p>
市長	<p>とまってくれてありがとう運動をはじめとして、子どもたちを中心とした交通安全活動を逢妻地区は伝統的に行っていた。2者間の交通事故は、どちらかが気が付けば回避できる。子どもの見守り活動の際に、ぜひ子どもたちに安全確認の大切さを伝えていただきたい。大人が安全確保をやればやるほど子ども自身が安全確認を怠りがちになってしまう。子どものときに相手を意識することを習慣づければ、大人になっても周囲に気を配った安全運転ができるはず。ぜひ、見守り活動では、そこに気をつけていただきたい。</p>